

I 石川県の経済動向（平成15年8月～10月）

～ 様々な事象や統計情報等を通じ、
3か月毎の県内の経済情勢を
調査・分析していきます。～

1 概 況 —— 穏やかな回復基調を持続か?!

【生 産】

県内の製造業は、自動車関連の受注が回復傾向にあり好調に推移している産業もありますが、個別に見ていくと SARS、天候などの特殊要因で弱含みのところもあります。

非製造業においては、建設業が公共工事の受注減等によって厳しい状況が続いていますが、企業倒産件数自体は昨年同期に比べて大幅に減少しているところから、業況の下げ止まりが期待されます。

【消 費】

消費動向においては、天候などの特殊要因も絡み大型小売店売上高が前年同期に比べて連続して減少するなど厳しい状況が続いています。しかし、平成15年6月～8月期には特別に支払われた給与（ボーナス）が前年に比べて上昇しており、また、冬のボーナスが数年ぶりに前年を超えるとの予測も出ていることから、これからの消費マインドに結びつくことが期待されています。

【雇 用】

雇用状況においては、有効求人倍率が5期連続して緩やかに上昇しており、企業の業況感が回復してきていることが窺えます。また、完全失業率は依然として高水準にあるものの、2期連続して下降しています。

【その他】

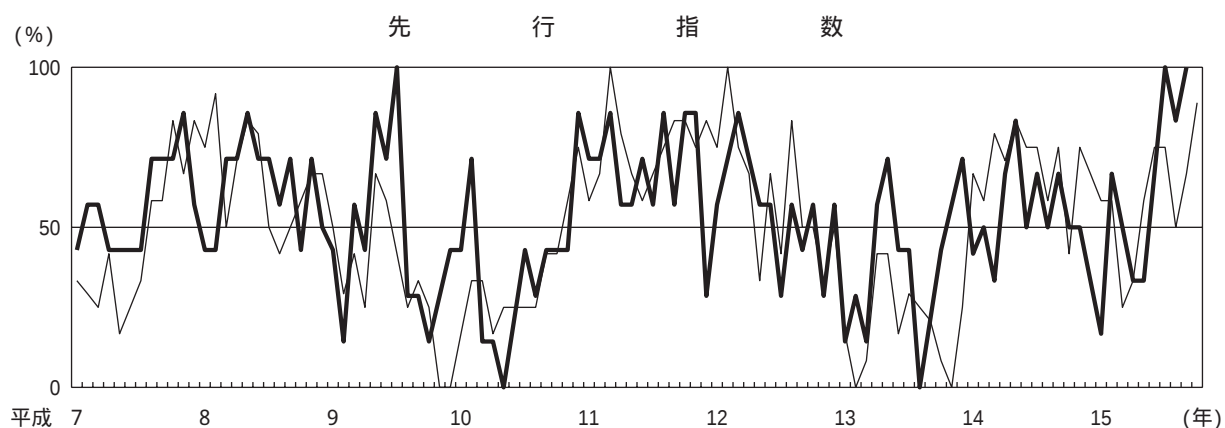
観光産業においては、観光客数が大河ドラマの翌年ということもあり、総じて前年を下回っています。

7月に開港した能登空港利用者数は当初の予想を超える高い率で推移しています。冬場は天候が悪くなりますが、できるだけ多くの人々の利用が期待されます。

2 産業別動向

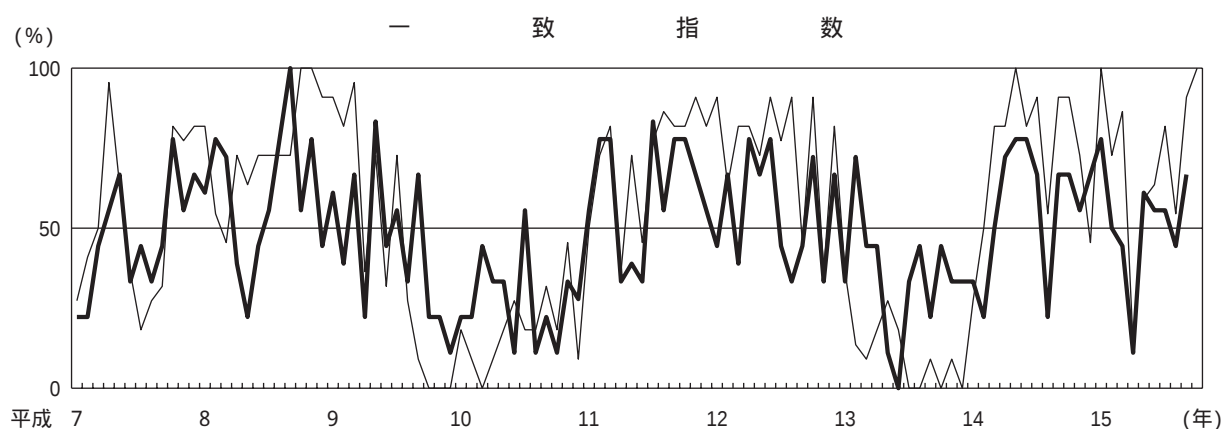
景気動向指数 [平成7年1月～平成15年9月]

図 - 1



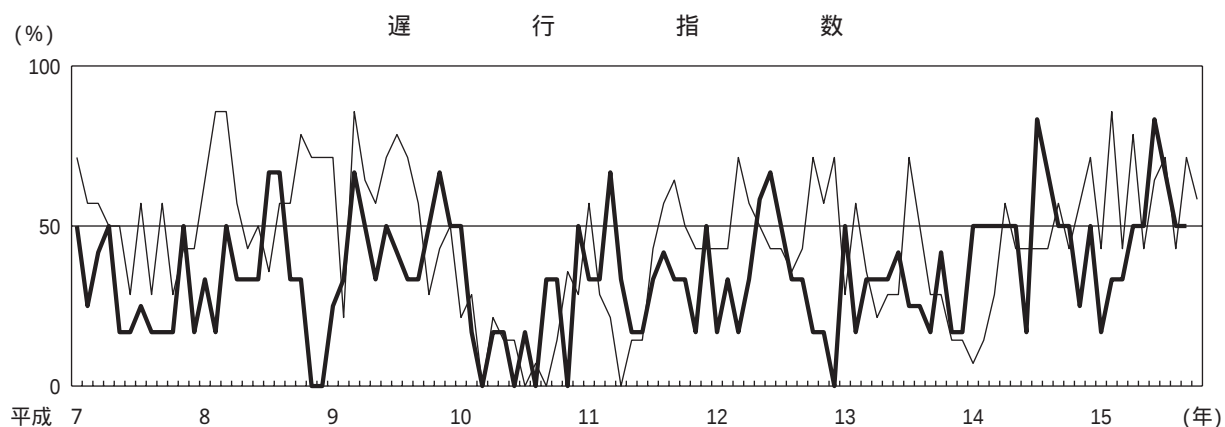
・9月の先行指数は、新車新規登録数の変化方向がプラスに転じ6指標全ての变化方向がプラスになったことから指数値は100%となり、4か月連続して50%を上回った。

図 - 2



・9月の一致指数は、大口電力使用量等2指標の変化方向がプラスになったことから、2か月ぶりに50%を上回った。

図 - 3



・9月の遅行指数は、不渡手形発生率の変化方向がプラスに転じたが、雇用保険受給者数の変化方向がマイナスになったことから、2か月連続して基準の50%となった。

年 月 系列名		平成12年			平成13年									平成14年					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
先行系列	新設住宅着工戸数	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-	+	+	+	-	-	+	+
	所定外労働時間	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-
	東証株価指数	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+	+	+
	新車新規登録数	+	-	+	-	+	-	+	+	-	+	-	-	-	-	+	-	+	-
	新規求人数	-	-	+	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-
	銀行貸出残高	+	-	-	-	-	+	+	+	-	+	-	-	+	+	+	+	-	-
一致系列	有効求人倍率	+	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	大口電力使用量	+	-	-	+	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	+	-	+	-
	鉱工業生産指数(総合)	0	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-
	鉱工業生産指数(機械)	+	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	+
	鉱工業生産指数(繊維)	-	-	-	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-
	百貨店販売額	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	+
	温泉旅館宿泊客数	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
	単位労働コスト	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-
	建築着工床面積	-	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	-	+	-	+
遅行系列	不渡手形発生率	-	-	-	+	-	+	-	+	-	-	+	+	+	-	+	+	+	-
	雇用指数	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	-	0	-	-	+	+	+
	賃金指数	-	-	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	+	+	+
	貸出約定平均金利	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	雇用保険受給者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+
	営業倉庫在庫高	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-

年 月 系列名		平成14年									平成15年								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
先行系列	新設住宅着工戸数	+	-	-	-	-	+	+	-	+	-	+	+	+	-	+	+	+	+
	所定外労働時間	+	+	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+
	東証株価指数	+	+	-	-	+	+	-	+	-	+	+	-	-	-	+	+	+	+
	新車新規登録数	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	-	-	-	+	-	+
	新規求人数	-	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	+	+	+
	銀行貸出残高	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	+	+	+	+
一致系列	有効求人倍率	0	+	+	+	+	+	+	+	+	+	0	-	-	0	+	+	+	+
	大口電力使用量	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+	-	-	+	-	-	-	+
	鉱工業生産指数(総合)	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-
	鉱工業生産指数(機械)	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	-	+	+	+	-	+
	鉱工業生産指数(繊維)	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+
	百貨店販売額	+	+	+	-	-	+	+	-	-	+	-	+	-	-	-	-	+	+
	温泉旅館宿泊客数	+	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+
	単位労働コスト	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	-	-
	建築着工床面積	-	-	-	+	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
遅行系列	不渡手形発生率	-	+	-	+	-	-	-	-	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+
	雇用指数	-	-	-	+	+	+	+	0	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+
	賃金指数	-	-	-	+	+	+	+	-	+	-	-	-	+	+	+	+	-	-
	貸出約定平均金利	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	雇用保険受給者数	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-
	営業倉庫在庫高	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+

(注) 季節変動による影響を取り除き、3か月前に比べて上がった場合は+、下がった場合は-、変動がなかった場合0で示してある。

産業個別動態 [平成15年 8 月～10月]

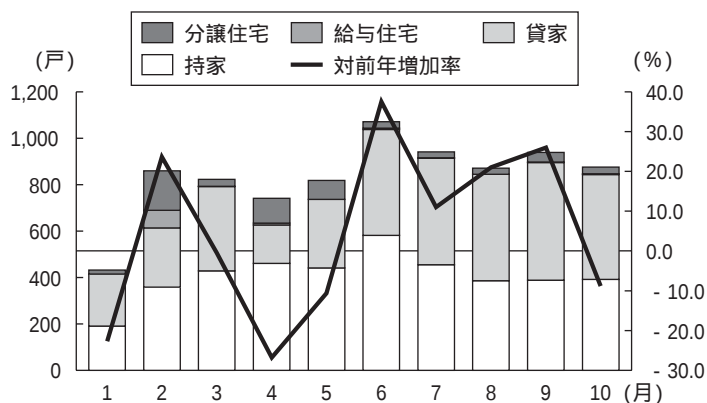
資料出所：日本銀行金沢支店「北陸3県の金融経済概況」他

合 成 繊 維	衣 料 品	輸出は SARS 問題の収束により、減少傾向に歯止め。 内需は低価格輸入品との競合等から、低調に推移。 生産は引き続き弱含んでいるが、前年比マイナス幅は小幅化。
	非 衣 料 品	自動車内装材の受注が堅調に推移全体では強含み。
電 気 機 械	ディスプレイ	国内向けは新製品の投入効果がみられるが、海外は法人需要が低調で、基調として横這い圏内にある。
	サーバー・周辺機器	生産は、下げ止まりつつある。
	I C	生産は、デジタル家電向けや携帯電話向けが増加している為全体増。
	建設機械	生産は、新製品投入による輸出増加により下げ止り。
	プレス機械	国内受注、海外受注ともに自動車関連が増加。 このため、生産は増加している。
	繊維機械	受注は、弱含んでいるものの、引合は回復気味。 生産は、高水準の受注残を背景にフル生産が続いている。
	工作機械	国内受注は、自動車関連中心に底固く推移。 海外受注は自動車や液晶関連で米国や東アジア向けが増加。 生産は引き続き増加している。
紙・パルプ	印刷・情報用紙等	生産は、携帯電話関連の出荷が堅調に推移。 また、設備改修を控えた在庫積み増しもあり、増加。
	段ボール原紙	生産は、需要の低迷が続き低調に推移。
化学・医薬品	医薬品関連	生産は、OEM（相手先商標生産）や後発医薬品生産等の増加から、緩やかに増加している。
	プラスチック製品等	生産は、自動車部品向けが弱まりつつも、携帯電話向けが堅調なことから、全体でも緩やかな増加傾向。
建設資材	アルミ建材	住宅用建材は、新製品効果やリフォーム案件増加、サッシの規格変更（尺→メートル）による在庫積み増しにより堅調に推移。 ビル用建材は、首都圏の再開発工事が峠を越したことから、生産は横這い気味。
	セメント	公共工事減とともに生産・出荷とも減少傾向。
	建設	住宅は住宅ローン減税適用期限前の駆け込み着工が落ち着き、10月の着工戸数は5か月振りに対前年減となった。 また、公共工事減もあり、基調としては低調に推移。 (図1参照)

図1 新設住宅着工戸数の推移

年 月	戸 数 (戸)	総床面積 (㎡)
平成15年 1 月	432	37,957
2	860	89,858
3	823	87,990
4	741	92,786
5	818	90,128
6	1,071	109,283
7	941	88,731
8	871	79,119
9	939	86,224
10	876	81,277

戸数の対前年増加率と内訳（平成15年 1 月～10月）

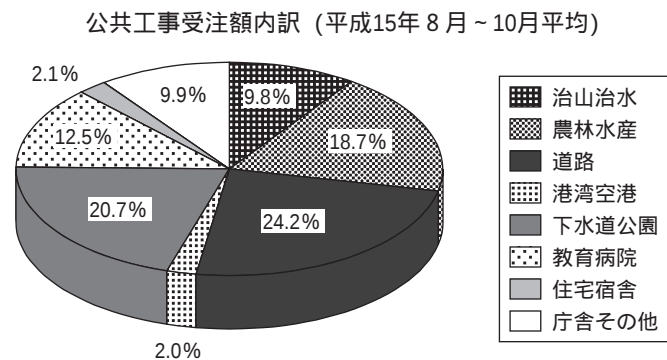


資料出所：国土交通省

公 共 工 事	受注件数、金額とも引き続き増加しているが、対前年同月では引き続き減少している。（図2参照）
---------	---

図2 公共工事請負高の推移

年 月	総工事費 (百万円)	前年同月比 (%)
平成15年 1月	13,469	34.7
2	11,692	83.3
3	19,664	14.2
4	17,906	19.7
5	17,853	41.7
6	16,686	29.3
7	25,980	22.8
8	15,886	12.3
9	22,398	10.7
10	23,765	31.1

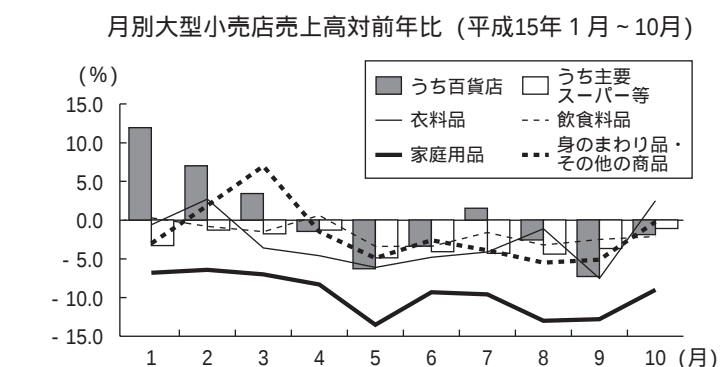


資料出所：東日本建設業保証㈱「工事目的別前払金保証取扱高」

小 売	百貨店売上高	8月：中元商戦が前年減、冷夏の影響で低調に推移。 9月：天候不順のため秋物衣料品を始めとして低調に推移。 10月：天候不順のため低調に推移するも下旬は気温低下の為衣料品売上が復調した。 (図3参照)
	スーパー売上高	冷夏の影響で飲料、冷菓等を中心に低調に推移。 (図3参照)
	乗 用 車 販 売	新車登録台数は、新型小型車投入が一服し引き続き弱めの動き。 また、普通貨物車両も排出ガス規制による買い換え需要が一段落。 (図4参照)
	家 電 販 売	デジタル家電は堅調なものの、冷夏の影響でエアコンや冷蔵庫等が大幅減で、全体でも前年を下回っている。

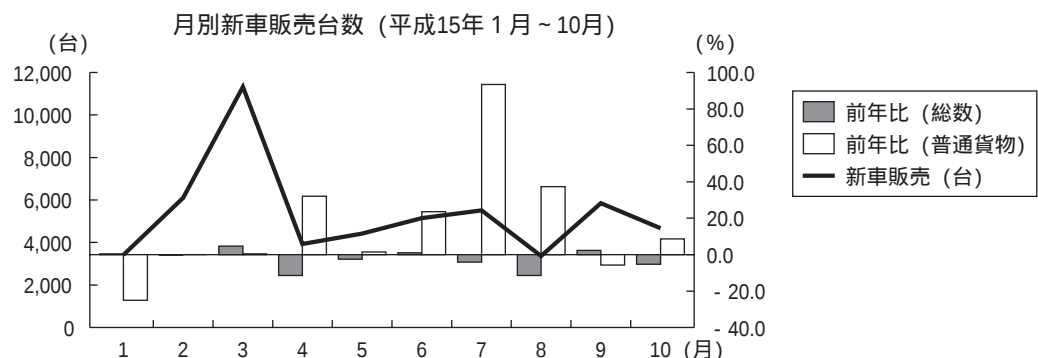
図3 大型小売店売上高の推移

年 月	合計金額 (円)	前年同月比 (%)
平成15年 1月	30,878	1.0
2	25,332	0.1
3	27,609	0.8
4	27,933	1.4
5	27,330	5.2
6	26,427	4.0
7	29,359	3.0
8	28,109	4.1
9	25,765	4.4
10	27,260	1.3



前年同月比はいずれも店舗調整済（新設・廃止された店舗分を除外して算出したもの）
資料出所：北陸財務局

図4 月別新車販売台数の推移



資料出所：石川県自動車販売店協会

消 費	消費者物価指数	10月は前月を下回ったものの全国値は5年半ぶりに上昇。 要因として冷夏による米価、とりわけもち米の価格が上昇したことによる。 (図5参照)
	家 計 消 費	9月に名目・実質とも-11%台に落ち込んだ反動で、10月は6%上昇した。 天候不順に伴う消費マインドの冷え込みも影響していると思われる。 (図6参照)

図5 消費者物価指数の推移

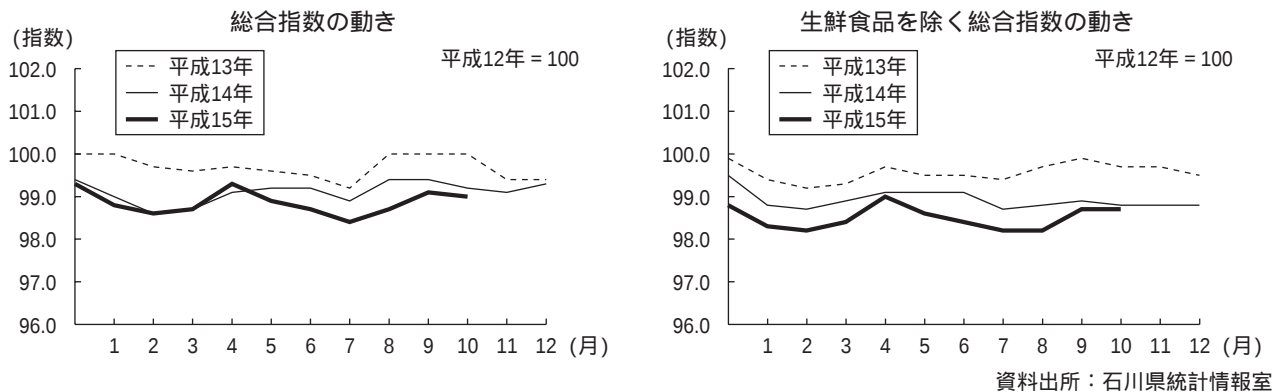
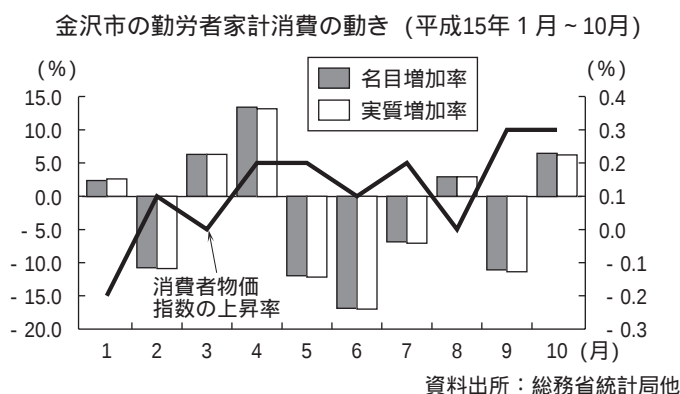


図6 消費支出と物価指数の推移

年 月	消費支出実数 (円) (金沢市勤労者世帯)
平成15年 1 月	351,654
2	334,258
3	425,207
4	412,740
5	327,382
6	332,713
7	384,737
8	356,433
9	338,326
10	374,327



雇用情勢	有効求人倍率	雇用失業情勢は依然として厳しいものの求人数の増加と求職者数の減少が続いているなど、 穏やかな改善の傾向あり。 (図7参照)
	雇用手当受給	連続して減少傾向であり、雇用状況の改善が窺える。 (図7参照)
労働力	完全失業率	10月の全国の完全失業率は7ヶ月ぶりの悪化で5.2%となった。 北陸地域の完全失業率は7～9月期の数値は前期より改善し昨年同期と同水準。
毎月勤労	労働時間	連続して増加傾向である。 (図8参照)
	賃金指数	産業全体としては対前年比で増加傾向にあり、改善の兆しが見受けられる。 また特別支給の給与についても増加している。

図7 有効求人倍率の推移

年 月	有効求人倍率 (倍) (季節調整値)
平成15年 1 月	0.69
2	0.67
3	0.66
4	0.67
5	0.68
6	0.67
7	0.69
8	0.72
9	0.76
10	0.83

有効求人倍率と基本手当支給金額の推移 (平成15年1月～10月)

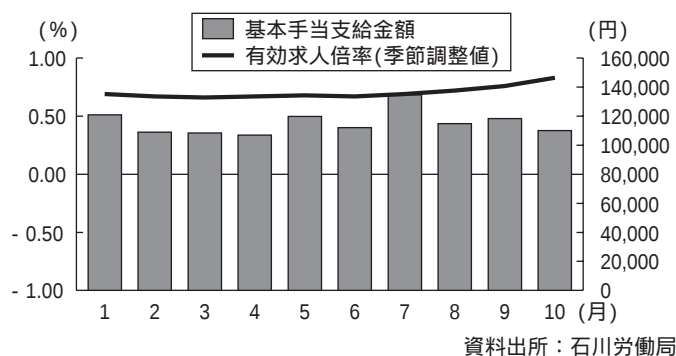
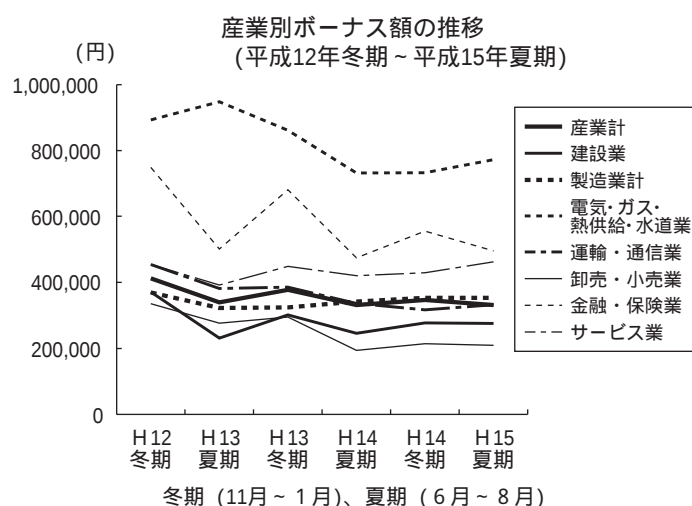


図8 実質賃金指数及び時間外労働時間の推移

年 月	実 質 賃金指数	前年同月 比 (%)	時 間 外 労働(時)	前年同月 比 (%)
平成15年 1 月	79.8	4.2	12.3	11.8
2	80.2	1.4	13.1	12.0
3	84.1	4.1	14.5	14.2
4	81.6	2.7	13.4	8.1
5	78.1	2.7	12.2	7.0
6	131.3	4.1	13.0	0.0
7	121.9	2.1	13.9	5.3
8	85.7	4.5	14.7	13.1
9	81.1	2.9	16.1	12.6
10	81.4	1.6	17.3	18.5

実質賃金指数は名目賃金指数を四市平均（金沢市・七尾市・小松市・輪島市）消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）で除したものである。



観 光	観光入り込み客数	大河ドラマ効果の反動や冷夏により大幅に減少。
	旅 行	国内旅行は、海外旅行からのシフトもあって堅調に推移。 海外旅行は、SARS 収束後も大幅に減少。全体でも減。
運 輸	旅客輸送	航空利用者数等は、観光客の減少等により弱めの動き。 能登空港の利用状況は、観光客を中心に引き続き好調に推移しているので、冬場の動向に注目。
	貨物輸送	運送貨物量は、自動車関連、一般機械の出荷は堅調だが、飲料関係やその他の国内向け出荷が低調で、全体でも幾分弱含んでいる。
企 業 倒 産		8月9月と地元銀行破綻関連の大型倒産が相次いだが、全体的には4月～7月の実績を下回っている。とりわけ、建設業に関しては1月～10月の負債額は前年同期比で60%減（件数36%減）となった。（図9参照）

図9 県内企業倒産状況の推移

年 月	件 数	前年同月 比 (%)	負債額 (百万円)	前年同月 比 (%)
平成15年 1 月	12	0.0	2,850	61.2
2	18	38.5	1,975	62.6
3	4	47.6	550	10.6
4	5	43.5	630	71.6
5	13	7.1	5,685	251.1
6	12	100.0	1,234	153.9
7	9	50.0	1,040	74.8
8	10	50.0	921	72.5
9	11	26.7	486	93.2
10	17	19.0	214	87.8

倒産件数内訳（平成15年1月～10月平均）

